

和光市総合振興計画審議会第2回会議（安心部会） 会議要旨

開催日：平成27年5月28日（木） 午後2時00分～4時00分

開催場所：和光市役所4階研修室

出席者：荒木保敏部会長、野宗玲子委員、花輪宗命委員、鷹咲子委員、
松永靖恵委員、板垣隆夫委員

欠席者：森田圭子委員、山田智好委員、深野威委員、宍戸博委員

事務局：川辺課長、前島課長補佐、工藤主査、遠藤主事

傍聴者：1名

次第：1 開会

2 議事

(1) 施策内容修正シートに関する審議

- 施策16 よりよく適応するための支援体制づくりの推進
- 施策18 安全でおいしい学校給食の充実
- 施策21 幼児教育の機会の支援
- 施策22 生涯学習支援の推進
- 施策25 歴史的・文化資源の保護・活用の推進
- 施策33 安心して楽しい育児の推進
- 施策34 地域における健やかな子育ての実現
- 施策35 子育て家庭への経済的支援
- 施策36 高齢者の生きがいと社会参加への支援
- 施策39 チャレンジドが安心できる障害福祉の推進
- 施策40 地域で支えあう福祉の推進
- 施策41 低所得者の生活の安定と自立への支援
- 施策43 健康で元気になる食育の推進
- 施策44 安心できる健康づくりの推進
- 施策45 地域との連携による保健・医療体制の推進
- 施策67 市民参加の推進
- 施策68 さまざまな連携によるまちづくりの推進
- 施策69 計画的な行政経営
- 施策70 効果的・効率的な行政サービスの提供

3 その他

次回開催の日程

4 閉会

1 開会

2 議事

(1) 施策内容修正シートに関する審議

施策16 よりよく適応するための支援体制づくりの推進

[7. 施策指標]

資料4 事前質問・回答一覧から抜粋

事前質問1

板垣委員：現状で小学校の不登校児童数が他市に比べて高いと問題指摘されているにもかかわらず、指標設定しない理由は何か。

所管課：指標設定時には、中学校の不登校生徒数が課題であったため、経年変化を把握して定量的な評価を行うために同一指標により対応してきました。

事前質問2

板垣委員：「相談件数については、教育支援センターにおける相談件数のみではなく各学校における支援件数を含めた件数を指標とするべきである」との部会の意見を採用しなかった理由は何か。

所管課：平成19年度に開設した教育支援センターを拠点とした支援体制の充実に取り組んできており、当初に設定した教育支援センターにおける相談件数という同一指標により対応してきました。

板垣委員：指標を追加すべきと指摘され、なぜ追加しないのか理由を確認したかったが、残念ながら回答になっていない。中学校の不登校生徒数は指標として示されているが、現状として小学校の不登校児童数が多いことを問題として指摘されているなら、指標を作ってフォローするべきではないか。また、過去に部会からの指摘を受けたことに対応しないのであれば、その理由を説明する責任がある。

荒木部会長：改めて部会の意見として指摘する。

鷹委員：年間30日以上欠席の理由は「病気」、「経済的理由」、「不登校」、「その他」に分類されるが、自治体によって「不登校」と「その他」のどちらにするか、基準が異なる。どちらにするかによって、ある程度調整しているのではないかと思う。施策指標に「その他」を含めていないのであれば、「その他」を含めた数値を出すことが望ましい。施策指標とすることが難しいのであれば、事務事業評価表の指標として示すべき。

[部会の意見]

不登校児童数を追加する。(追加しない場合、その理由を明確にする。)

[部会の意見]

相談件数については、教育支援センターにおける相談件数のみではなく各学校における支援件数を含めた件数を指標とする追加する。(追加しない場合、その理由を明確にする。)

[部会の意見]

不登校者数については「不登校」に加え「その他」を計上する。

施策18 安全でおいしい学校給食の充実

[7. 施策指標]

鳩 委 員： 「残渣」と「残食」は何が違うのか。

事 務 局： 「残食＝食べ残し」、「残渣＝食べ残しと、調理中に出た野菜くず（キャベツの芯など）」とのこと。

[部会の意見]

意見なし。

施策21 幼児教育の機会の支援

[7. 施策指標]

資料4 事前質問・回答一覧から抜粋

板垣委員： H24部会の説明で「幼稚園児保護者補助対象園児の割合」についても、今後の補足指標として進捗管理をしていきたい」と表明されていたが、今回の見直しで施策指標としなかった理由は何か。

所管課： 施策指標とすることとしました。

荒木部会長： 事前質問・回答については、部会の意見として報告する。

[部会の意見]

幼稚園児保護者補助対象園児の割合を追加する。

施策22 生涯学習支援の推進

[部会の意見]

意見なし。

施策25 歴史的文化資源の保護・活用の推進

[7. 施策指標]

資料4 事前質問・回答一覧から抜粋

板垣委員： 「文化財関係の講座参加者数」がH24年375人に対しH26年33人と激減している理由は何か。目標値や取組内容の見直しは不要か。

所管課： 規模が大きく日程に左右される事業（遺跡見学会）、隔年に行う事業（展示会関連講座）も指標の数値となるため、ばらつきがある。取組内容を見直し、

遺跡見学会は指標数値からはずし、講座の定員に対する参加率に指標を変更します。

荒木部会長： 事前質問・回答については、部会の意見として報告する。

[部会の意見]

「文化財関係の講座参加者数」を「文化財関係の講座の定員に対する参加率」に変更する。

施策 33 安心して楽しい育児の推進

[3-2. 平成27年度の現状]

荒木部会長： この施策に限らず、こども福祉課の施策すべてに共通することですが、平成27年度の現状が空欄になっているので追加をしてほしい。例えば、新たにアンケート（ニーズ）調査を実施するのであれば、それを記載すべき。総合振興計画策定時からの変化が何もないというのは考え難い。

[部会の意見]

《こども福祉課全施策共通》現状に策定時からの変化を記入する。

[7. 施策指標]

野宗委員： 市が提供する子育て支援でサークル的な活動プログラムが多数ある。そちらに参加する人が多い。独自でお母さん方が作るようなサークルは減ってきている状態。施策指標では子育てサークル団体数を増やしていく目標設定になっているが、そのまま継続していくことが子育て支援につながるのかについては疑問。再検討が必要ではないか。

花輪委員： 目指す目標が誤解を招くのであれば、市の提供する子育て支援が充実してきているというような指標を示すか、削除をするのがよいのではないか。

荒木部会長： 自主的に行っているサークルは増えていると思う。市が把握していない部分はあるのではないか。数値目標だけ上がっているが、10年後はどのような状況が理想かという目標は必要かと思う。

野宗委員： 把握できていない部分があるのであれば、補足できるような指標に訂正してはどうか。

[部会の意見]

子育てサークル団体数について、市が把握できる指標に変更する。

施策 34 地域における健やかな子育ての実現

[6. 取組内容]

資料4 事前質問・回答一覧から抜粋

板垣委員： 取組内容から「家庭訪問型子育て支援事業（ホームスタート）」を外した理由

は何か。

所 管 課 : ホームスタート事業は、平成 27～31 年度までの和光市こども・子育て支援事業計画において、地域における妊娠期から出産育児までの切れ目のない支援（和光版ネウボラ事業）の一環として事業の位置づけをしたことから、取組内容から外しています。

鷹 委 員 : ネウボラとはどのような事業か。

野 宗 委 員 : 取組内容①に記載のとおり「地域における妊娠期から出産、育児までの切れ目のない連続した支援体制」です。

荒木部会長 : ネウボラとして行っているなら、その記載をした方がよいのではないか。

[部会の意見]

括弧書きでネウボラの記載を追加する。

施策 35 子育て家庭への経済的支援

[7. 施策指標]

鷹 委 員 : 子ども医療費受給資格登録をしていない人は、本当に受給が必要ない人たちなのか。本当に必要な人が登録していないのであれば、目標値は下げない方がよいのではないか。

[部会の意見]

子ども医療費受給資格登録をしていない人の状況を把握し、必要な人が登録できていない場合は目標値は変更せず 100%とする。

施策 36 高齢者の生きがいと社会参加への支援

[部会の意見]

意見なし。

施策 39 チャレンジドが安心できる障害福祉の推進

[6. 取組内容]

資料 4 事前質問・回答一覧から抜粋

板 垣 委 員 : 長年使われてきた「権利擁護」という言葉を外して、「サービス調整」に置き換える理由は何か。

所 管 課 : 地域生活支援センターは、権利擁護だけではなく、障害者一人ひとりに合わせて、様々なサービス（異動支援や訪問入浴等）の紹介や調整を行っているため、サービス調整という表現に置き換えました。

板 垣 委 員 : 回答を受けても、やはり違和感が残る。

鷹 委 員 : 「サービス調整および権利擁護」などと両方記載すればいいのではないか。

[部会の意見]

サービス調整と権利擁護を両方記載する。

[その他]

花輪委員： 「障害者」という表記は適切なのか。「障がい者」ではないのか。

荒木部会長： 社会福祉協議会では「障がい者」と表記している。和光市都市計画マスタープランでも「障がい者」と表記してある。

[部会の意見]

「障害(がい)者」の表記を確認する。

施策 40 地域で支えあう福祉の推進

[部会の意見]

意見なし。

施策 41 低所得者の生活の安定と自立への支援

[部会の意見]

意見なし。

施策 43 健康で元気になる食育の推進

[7. 施策指標]

資料4 事前質問・回答一覧から抜粋

板垣委員： H25年度部会意見「施策の達成状況を毎年度把握できる施策指標の設定、各年度の取組がもたらす成果を統一した方法に基づいて算出できる施策指標の設定が必要である」に対応していない理由は何か。

所管課： 事業の見直しや変更に伴い「健康教育への参加者数」の算出方法が変更され、達成度を評価することが困難なため、施策指標とすることが難しいためです。
また、食育に関するアンケートを毎年単独で実施していないためです。

板垣委員： 改善してくれと言っているのに、なぜやらないのか答えになっていない。できないのならできない理由を書いてほしい。

荒木部会長： アンケートは何年に1回なのか。毎年でなくても定期的にアンケートをとった方がよい。

鷹委員： 担当課で予算等の理由でできないのであれば、政策課で市民意識調査と一緒に実施するのはどうか。

板垣委員： 参加者数を削除するのであれば、それに代わる新しい指標を記載すべき。

[部会の意見]

部会の意見「施策の達成状況を毎年度把握できる施策指標の設定、各年度が取組がもたらす成果を統一した方法に基づいて算出できる施策指標の設定が必要である」に対応できない理由を示す。

[部会の意見]

「健康教室への参加者数」を削除するのであれば、それに代わる指標を追加する。

施策 44 安心できる健康づくりの推進

[7. 施策指標]

資料4 事前質問・回答一覧から抜粋

板垣委員： 「保健指導実施者のメタボ改善率」に関して、過去の実績(H21～24 平均 40%)に比べて、国の法定報告に基づいて新しく設定した目標値(25%)がかなり低くなる理由は何か。

所管課： メタボ改善率の数値は、今まで、保健指導実施者の腹囲改善率を指標としていました。平成 21 年度評価時は、この方法でしかできませんでした。しかし、国の法定報告は、保健指導対象者のメタボ改善率を経年比率でみており、対 20 年度比 25%の改善率を目標としています。平成 25 年度までは、保健指導実施者の腹囲改善率を指標としていることから、指標名を「保健指導実施者の終了時の腹囲によるメタボ改善率」に変更し、目標値は、変更しないことにしました。

荒木部会長： 事前質問・回答については、部会の意見として報告する。

[部会の意見]

「保健指導実施者のメタボ改善率」について、指標名及び目標値を見直す。

施策 45 地域との連携による保健・医療体制の推進

[7. 施策指標]

資料4 事前質問・回答一覧から抜粋

板垣委員： 施策指標は、保健医療サービス満足度のみではなく、具体的な医療体制の確保等を指標として設定することはできないか。

所管課： 具体的な医療体制の確保として、小児救急休日夜間診療延日数と輪番制による休日夜間診療延日数を設定します。

荒木部会長： 事前質問・回答については、部会の意見として報告する。

[部会の意見]

「小児救急休日夜間診療延日数」と「輪番制による休日夜間診療延日数」を追加する。

施策 67 市民参加の推進

[3-2. 平成27年度の現状]

資料4 事前質問・回答一覧から抜粋

板垣委員： 「運用面での課題がある」とは具体的にどういうことか。

所管課： 市民参加の手法は、市民参加条例第7条に規定されていますが、条例制定以来、実施されていない手法があったり、実施する手法が一部(特にパブリック・コメント)に偏りがあるなどの課題があります。条例制定から10年が経過していることから、実情にあった手法の検討及び実施方法の見直しが求められています。

板垣委員： やはりこの文章を読んだだけでは、課題があるというだけで内容が分からない。

事務局： 市民参加の手法については、ワークショップや説明会などがありますが、より多くの市民参加を促すために新たな手法の検討が必要になってきているということです。

板垣委員： 課題の具体的なものについて施策内容修正シートに追加してほしい。

[部会の意見]

「運用面での課題」について具体的な内容を追加する。

施策 68 さまざまな連携によるまちづくりの推進

[7. 施策指標]

資料4 事前質問・回答一覧から抜粋

板垣委員： 施策指標の市民意識調査「地元の企業や公共研究機関との交流にかかわったことがある人の割合」だけでは施策の成果を適正に評価できるか疑問である。施策の結果として具体的な連携の広がりを閉める適切な指標はないか。

所管課： 次の施策指標の追加を検討します。

【指標名】 友好都市の交流事業数

【H26】 14事業 【H27】 14事業 【H32】 17事業

なお、事業内容は、スポーツ交流・夏休み里山体験教室・和光きもの散歩等です。

荒木部会長： 事前質問・回答については、部会の意見として報告する。

[部会の意見]

友好都市の交流事業数を追加する。

施策 69 計画的な行政経営

[部会の意見]

意見なし。

施策 70 効果的・効率的な行政サービスの提供

[6. 取組内容①]

資料4 事前質問・回答一覧から抜粋

板垣委員： H24年度組織再編が終了したため、「簡素で効率的な組織づくり」を課題と取組内容から外しているが、H32年まで不要とする根拠は何か。

所管課： 全庁的な見直しによる大規模な組織再編は、市役所の利用者たる市民の皆様への影響も大きく、また、その検証においても再編後の組織としての一定期間の実績が必要となることから、短期間での再度の大規模な組織再編を想定していないことから不要としたものです。

板垣委員： 「簡素で効率的な組織づくり」という課題は、不断の取組が必要な内容だと思う。それをテーマから外すことはどうなのかと思ったが、所管課が「大規模な組織再編」と見ているのであれば、私の意識とのずれがあったのだと思う。組織を大規模に再編しろといってるのではない。

荒木部会長： 組織は必要に応じて再編することもある。それならば、社会情勢や市民ニーズに応じて取組をするという意味で削除はしないという意見としたい。

[部会の意見]

「簡素で効果的な組織づくり」について継続する取組として残す。

3 その他

次回開催の日程

開催日：平成27年7月13日（月） 午後2時00分より

開催場所：和光市役所議事堂3階全員協議会室

4 閉会

荒木部会長より、閉会の挨拶・解散。